

第 38 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時:2013 年 3 月 27 日(水)12:00～13:00

場所:近畿大学東大阪キャンパス A 会場

議事内容

1.部会長挨拶

2.平成 24 年度バックエンド部会賞

平成 24 年度部会表彰者はバックエンド部会表彰委員会での選考及び運営委員会での承認を経て以下の方々に決定したことを報告するとともに、表彰・記念品の授与を行った。

第 24 年度バックエンド部会賞 受賞者一覧

功績賞

佐藤 正知 殿

表彰理由:

- ・原子力学会論文賞を受賞されたガラス固化体研究をはじめ、粘土緩衝材の性能に関する研究などによって、バックエンド分野の研究開発を主導され、2004 年度には日本原子力学会バックエンド部会長としても活躍された。
- ・国や研究機関等の委員会で主査等の要職を歴任し、各課題の審議を主導している。
- ・九州大学や北海道大学で多くの学生を指導するとともに、国際原子力人材育成イニシアティブ事業「多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材の機関連携による育成」において代表を務められるなど、人材育成・教育面における貢献も顕著である。
- ・エネルギーに関する分かり易い書籍の執筆や、ラジオのパーソナリティーを務めるなどの啓蒙活動を展開された。

業績賞

吉田 英一殿

表彰理由:

- ・天然バリア中の物質移行挙動に関する研究および関連学会における地層処分関連研究の普及・推進に貢献された。
- ・地層処分に関する書籍の著述・出版によって地層処分の可能性と課題について地質学的観点から分かり易く整理された。

優秀講演賞

山口 正秋 殿

表彰理由:

口頭発表 I32「放射性物質の長期移行評価のための土砂移動解析」について、「“優秀講演賞”の評価基準」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

優秀講演賞

舘 幸男 殿

表彰理由:

口頭発表 B14「圧縮ベントナイト中の収着拡散データ取得評価手法の開発 (1) Ni の収着拡散の間隙水の pH と塩濃度依存性評価」について、「“優秀講演賞”の評価基準」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

3. 平成 24 年度活動報告

3.1 企画報告

3.1.1 企画 A

①国際会議関係

EAFORM(East Asia Forum on Rad-Waste Management) の準備状況について報告した。バックエンド部会としては、部会の下に EAFORM 小委員会を設置して本会議に関与していることを紹介した。また、次回は第 4 回 EAFORM を開催地:中国(北京)、開催日:10 月 14 日(月)~16 日(水) (16 日はテクニカルツアー)で実施予定であり、バックエンド部会メールサービスにて参加募集の案内を配信(3/19)であることを報告した。

インド原子力学会との協力協定を締結予定であることを報告した。部会としての研究交流の計画を検討(学会からの依頼)しており、2013 年度は、インドの状況を把握しどのような交流ができるか検討し、その結果を踏まえて具体的な研究交流の企画を検討することを報告した。

②プログラム編成

2013 年春のプログラム編成委員の紹介を行った。

③大会・年会における企画セッション

- ・2012 年秋の大会におけるバックエンド部会セッション「地層処分事業の着実な実施に向けて」について報告した。
- ・2013 年春の年会におけるバックエンド部会企画セッション「福島第一原発事故に伴う放射性物質の環境中の長期的な移行挙動について」について報告した。

3.1.2 企画 B

①夏期セミナー

- ・前回夏期セミナーのアンケート結果を報告した。
- ・次回の夏期セミナーの案を紹介した。次回も福島県内での開催を予定しており、日程が 8/7~9 の予定であること、内容については福島事故対応関連及び地層処分・余裕深度処分などを検討中であることを報告した。なお、詳細については、今後運営小委員会で議論し、内容が決まり次第、バックエンド部会メーリングリスト及び WEB にて案内することとした。

3.1.2 企画 C

①日本地質学会 トピックセッション「地層処分と地球科学」の共催について報告した。

- ・日本地質学会第 119 年学術大会(大阪大会)にて、トピックセッション「地層処分と地球科学」(平成 24

年9月15日～17日)の共催について報告した。

②(社)防食腐食協会主催の国際ワークショップ(予告)・学生ポスター選考

・第5回 放射性廃棄物処分システムにおける腐食挙動の長期予測に関する国際ワークショップ(平成25年10月7日～11日)の協賛および学生ポスターセッションの選考委員について報告した。

③ポジションステートメント

・平成22年度からの継続審議となっていた次のポジションステートメントについて、学会員意見公募(8/27から9/19)を行い、3名の方から6件の意見があり、今回は見送りとなったことについて報告した。

3.2 広報報告(週末基礎講座案内等)

①H24年度 部会 HP 小委員会活動について報告した。

②バックエンド週末基礎講座

平成24年度の週末基礎講座の開催実績について報告した。

日時:基礎講座 H24.11.17(土)～H24.11.18(日)

場所:日本原子力研究開発機構 リコッティ 会議室

参加人数:33名

③その他 報告

説明員登録制度について

背景

・バックエンド分野において、中立・公正な科学技術者集団としての学会の立場から、より積極的な情報発信を行うことにより、社会的貢献を行っていきべきとの声がある。

・情報発信・コミュニケーション手段の一環として、以前に「説明員登録制度(仮称)」が検討されていたが、具体的な実施に至っていない。

⇒ H24年度 ワーキンググループを設立し検討(H24.8.24)

⇒ 学会の異常事象解析チーム(チーム110)等の制度を参考に、検討を継続する

広報活動の活性化について

・運営小委員会、出版小委員会、ホームページ小委員の会合会議の開催(H24.10.16)。広報活動についてのいくつかの提案があった

e.g. HPを用いたニューズレターの発行、部会情報メールによるメールマガジンの配信

⇒ 実施体制等を含め、検討を継続する

3.3 出版報告

以下について報告した。特に、部会員のための部会誌継続のために、引続き積極的な投稿/寄稿、査読へのご協力をお願いした。

①部会誌「原子力バックエンド研究」

部会誌「原子力バックエンド研究」2号発行(Vol.19 No.1, No.2)、発行数770部

②J-STAGEにおけるオンライン公開

・公開中:Vol.18-2、Vol.19-1、Vol.19-2

・登録作業中(公開目標4月上旬):Vol.9-1～Vol.18-1(72件)

③出版小委員会の活動

第1回出版小委員会(2012年6月13日)【主な議題】新年度体制、部会誌ビジョンほか

第2回出版小委員会(2012年10月30日)【主な議題】合同委員会報告、J-Stage登録件数の拡大
部会誌の充実を図るために。

④部会員の皆様へのお願い

3.4 庶務報告

①海外発表助成制度

平成23、24年度は上下半期とも応募無し

②研究会支援制度

平成23、24年度は応募無し

3.5 会計報告

平成24年度会計報告

- ・セミナー決算は、夏期セミナー会場に公共施設を使用したこと等により、支出が抑えられ、40万円ほどの黒字となった。(20%は学会本部に繰入)
- ・通常予算は、過去論文のJ-Stage登録等によって、30万円ほどの赤字となった。
- ・通常及びセミナー予算を合わせると、バックエンド部会として昨年度の支出はほぼ均衡。

平成25年度予算

- ・学会本部の財政状況の悪化により、本部予算と部会の独自予算に区分。本部予算は大幅な緊縮予算となっている。
- ・独自予算は夏期等のセミナー費及びJ-Stage登録料(平成25年度から)などで、独立採算制。今後、一層支出を抑制して、効率的な運営を目指す。

3.6 選挙管理委員会報告

平成25年度 運営委員改選選挙結果を以下のように報告した。

○バックエンド部会員総数:710名

○投票数:322名(45.4%)

○投票結果(敬称略)

		信任	不信任
部会長	長尾 誠也(金沢大学)	320	2
副部会長	塚本 政樹(電中研)	318	4
運営委員	飯田 芳久(原子力機構)	318	4
	大田 哲也(鹿島建設)	312	10
	大塚 伊知郎(原子力安全基盤機構)	319	3
	田中 健一(日本原子力発電)	315	7
	千々松 正和(間組)	314	8
	前川 恵輔(原子力機構)	318	4
	吉田 崇宏(原環センター)	316	6

以上の全員が信任された。

4. 審議事項 内規の整備に関して

【経緯】

- ・平成 24 年度に「部会内規」および「部会賞表彰内規」を整備し、学会が管理
 - 「部会内規」においては、小委員会の設置方法について、常設／非常設のそれぞれに柔軟に対応するよう表現を改める
 - 「部会賞表彰内規」については、「表彰小委員会」の設置方法を定める条文を追加する
- ・それまでの「表彰内規の細則」は、部会運営小委員会が管理する「部会賞表彰内規の取扱い要領」として改訂

【審議対象】

①「バックエンド 部会内規」の内容についての審議(既存の「バックエンド部会 内規」を改正)

旧

(小委員会)

第 3 条 本部会の事業の実施のために、運営小委員会のもとに、小委員会を設ける。

新

(小委員会)

第 3 条 本部会の事業の実施のために、運営小委員会のもとに、小委員会を設けることができる。

②「バックエンド 部会 部会表彰内規」の内容についての審議(既存の「バックエンド部会 部会表彰内規」を改正)

旧

(選考方法)

第 4 条 受賞者の選考は、運営小委員会が行う。

2 運営小委員会は、この選考を円滑に行うため、表彰小委員会を設置する。

3 表彰小委員会委員(長)は、原則としてバックエンド部会の副部長とする。

4 表彰小委員会委員は表彰小委員会委員長が選任し、運営小委員会において承認する。但し、委員名は公表しない。

5 その他、表彰小委員会について必要な事項は、別に定める。

新

(選考方法)

第 4 条 受賞者の選考は、運営小委員会が行う。

2 運営小委員会は、この選考を円滑に行うため、表彰小委員会を設置することができる。

3 表彰小委員会について必要な事項は、別に定める。

以上について審議を行い、出席者全員(32人)の賛同を得た。

以上